

## ■ H30 分析化学教科担当教員会議 ■

日時：3月27日（火）11:50～12:50

会場：大原学園金沢校 6F 教室 A/B/C) (S会場) (金沢駅の海側)

<http://www.o-hara.ac.jp/school/kanazawa3.html>

出席者：92名（出席者リスト添付）

議題：

- ① 講演「国家試験分析分野の動向」：11:50-12:15

北陸大薬 東 康彦

過去問をしっかりと学べば国試はこわくない例を多く述べていただいた。

- ② 学会・シンポジウムの開催案内 話題提供：12:15-12:30

BMAS 浜瀬健司（九大院薬）

BMS 大江知行（東北大院薬）

日本糖質学会年会 藤村 務（東北医科薬科大）

第52回日本痛風・核酸代謝学会総会 金子希代子（帝京大学）

日本薬学会第139年会と分析化学教科担当会議 東 達也（東京理科大）

- ③ 薬学会物理系部会の部会長を分析分野から選出することについて：12:30-12:38

萩中 淳（武庫川女子大）

4-5月に1大学1-2名に投票用紙を送り、選挙を実施、過半数でなく、最多得票で決定。

- ④ H30 分析化学教科書アンケート結果：12:38-12:43

小谷 明（金沢大院医薬保）

最も多かったのは、南江堂のパートナー分析化学であった。基本的にはH29と同じ傾向と判断された。

- ⑤ 分析化学 pH計算についての提案：12:43-12:50

小谷 明（金沢大院医薬保）

弱酸の pH 計算は高校化学の内容の復讐となっているが、この後にでてくる緩衝液の pH 計算とのギャップが大きい。緩衝液の pH 計算と同様に扱える  $\log$  を用いる計算を提案する。

出席者リスト，配布資料（①④⑤）添付。

今回は世話校の東 達也（東京理科大）先生により開催される旨アナウンスがあった。